（様式第５－２）

平成２２年８月４日

琉球大学大学院
理工学研究科長　殿

論文審査委員
主査　氏　名　　池田　孝之　　印
副査　氏　名　　小倉　暢之　　印
副査　氏　名　　堤　純一郎　　印

学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し，学位論文の審査及び最終試験を終了したので，下記のとおり報告します。

記

申　請　者	専攻名　総合知能工学　氏名　周　晟　　学籍番号 [redacted]	
指　導　教　員	池田　孝之	
成　績　評　価	学位論文　合格　不合格	最終試験　合格　不合格
論　文　題　目	中国・湖南省における農家楽観光の動向と実態・課題に関する研究	

審査要旨（２０００字以内）

現代化の過程の中で、中国農村地域では伝統的な文化や美しい自然が取り壊され、農村のコミュニティーが失われようとしている。農村の低生産性、農家の所得減少と都市住民との所得格差拡大等の問題が引き起されている。農村住民は生活を続けるために、経営を多角化する必要に迫られ、地元の農業や、歴史、自然を活用した農家楽観光を志向するようになった。一方、90 年代から都市住民の観光観念は成熟化、個性化、洗練化に変わってくる、農村で豊かな自然環境を求める旅や、田舎への体験を目指す都市住民が増えつつある。このような背景に、農家楽観光は 1990 年前後四川省成都市においては緩やかに増加してきている。1998 年中央政府による都市・農村との交流キャンペーンを契機して全国へと爆発的に伝播し、中部地区においては湖南省のものが注目されるようになった。

湖南省の行われてきた農家楽観光に関連する施策をみると、農家楽観光は都市・農村との交流に必要とされる飲食・物販・宿泊に関連する施設整備と、付帯して農業体験や観光摘みとり園等のサービスメニューが用意され、提供される形にある。その目的は、地域資源活用・人と地域の共生を考え、農村の自然環境や社会環境の保全、農業の振興、土地利用計画の有機的連携、更に人的交流の活発化を実現し、農村住民の合意に基づく主体的でかつ地域づくりの一環としての実践を行うことにある。しかし、湖南省では農家楽観光の拡大に伴い、無理に利用者のニーズに合わせて行く傾向がみられ、環境問題や地域格差の拡大問題がもたらされた。また、農村社会の存在様式について、多元的な理解を欠いた建設・開発がなされ、農村自然環境の破壊やアメニティ悪化、伝統文化の変容がさらに引き起こされてしまった。これから、農村を訪れることは都市の人々にとって心身を癒す大切な機会となるのではないか。このような可能性を実現するにはどうすればいいのか、と農家楽観光をめぐって多くの研究課題が出されている。

本研究は湖南省農家楽観光における観光行政の現状や、利用者の農家楽観光への評価・意識、また、実践者の目的と実践による効果・影響を調べ、農家楽観光を持つ課題を考察するものである。本研究は四部分を基本としている。

第一部分は序章であり、研究背景・目的や研究方法を述べている。第二部では、農家楽観光に関する概念を整理した上で、国内観光業の発展経緯や、農業・農村問題に関する政策を整理し、農家楽観光の発祥と政策の課題を探っている。第三部では、省の農家楽観光の現状と動向に着目し、観光行政上の問題と一般利用者の意識を把握している。

また、株洲市・長沙市の農家楽観光を行政の取り組み、利用者・実践者の意識について、事例分析を通してその課題・発展の方向性を明らかにしている。第四部では、日本グリーンツーリズムの先進事例を概観し、その運営ウハウや経験を中国の事例と比較し、観光展開の方向性を探っている。最後に農家楽観光持つ課題について考察を行ったものである。

本審査委員会は申請学位論文について資格要件及び内容を慎重に審査した結果、合格と認定する。最終試験として８月４日に実施した公聴会においても２３名の参加を得て活発な質疑に答え、多くの視点からの評価が得られた。以上から本研究論文は、本学大学院理工学研究科総合知能工学専攻における博士（学術）の学位論文として認める。

（様式第３号）

論　文　要　旨

論文題目：　中国・湖南省における農家楽観光の動向と実態・課題に関する研究

現代化の過程で、中国の多くの農村では伝統的な文化や美しい自然が取り壊され、農村のコミュニティーが失われようとしている。また、農村の低生産性、農家の所得減少と都市住民との所得格差拡大等の問題が引き起されている。農村住民は生活を続けるために、経営を多角化する必要に迫られ、地元の農業や、歴史、自然を活用した農家楽観光を志向するようになった。一方、都市住民の観光観念は成熟化、個性化、洗練化に変わってくる、近くの農村で豊かな自然環境を求める田舎への体験を目指す都市住民が増えつつある。

このような背景に、農家楽観光は 1990 年前後四川省成都市においては緩やかに増加してきている。1998 年中央政府による都市・農村との交流キャンペーンを契機し、全国へと爆発的に伝播した。現在、特に湖南省の農家楽観光が注目されている。これまでに湖南省の行われてきた農家楽観光に関連する施策をみると、農家楽観光は都市・農村との交流に必要とされる飲食・物販・宿泊に関連する施設整備と、付帯して農業体験や観光摘みとり園等のサービスメニューが用意され、提供される形である。その目的は、地域資源活用・人と地域の共生を考え、農村の自然環境や社会環境の保全、農業の振興、土地利用計画の有機的連携、更に人的交流の活発化を実現するべく、農村住民の合意に基づく主体的でかつ地域づくりの一環としての実践を行うことにある。しかし、湖南省では農家楽観光の拡大に伴い、無理に利用者のニーズに合わせて行く傾向がみられ、多くの環境問題や地域格差の拡大問題がもたらされた。農村社会の存在様式についての多元的な理解を欠いた建設・開発がなされ、自然環境の破壊やアメニティ悪化、伝統文化の変容がさらに引き起こされ、社会的公平がもたらされた。

本研究で、湖南省農村地域における農家楽観光の具体的な活動状況や抱えている課題、また、観光利用者の農家楽観光に対する評価・意識を把握し、さらに、実際に活動を展開している実践者の目的を理解し、実践による効果・影響を明らかにすることは、今後の持続的な農家楽観光の展開においては、その有用性と方向性を探る上で重要な視点になると考えられる。本研究はこの視点に着目し、まず、省内における全般的な活動の実態や課題といった動向を明らかにしたうえで、利用者の利用者実態、実践者の具体的な取り組みや課題・意識を明確化することを目的とする。

本研究は四部分を基本としている。第一部分は序章であり、研究背景・目的や研究方法を述べる。第二部では、農家楽観光に関する概念を整理した上で、国内観光業の発展経緯や、農業・農村問題に関する政策を整理し、農家楽観光の発祥と政策の課題を探る。第三部では、まず、省の農家楽観光の現状と動向に着目し、観光行政上の問題と一般利用実態を把握した。また、株洲市、長沙市の農家楽観光を行政の取り組み、利用・実践実態、事例分析を通して農家楽が持つ課題、発展の方向性を明らかにする。第四部では、まず日本型グリーンツーリズムの内容を概観してその知見をまとめ、そして中国の農家楽観光の問題を地域側、事業主体側、市場環境から問題を把握する。最後に、農家楽観光持つ課題や、行政、利用者、実践者の角度から考察を行う。

氏名　周晟